

8 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開 催 日 平成 26 年 8 月 7 日 (木)
- 2 開 催 場 所 議場棟 第 3 委員会室及び第 4 委員会室
- 3 出席した委員 神吉委員長、吉田委員、桃田委員、森委員、田淵教育長
- 4 出席した職員 諏訪教育総務部長、松尾教育指導部長、大西教育総務部次長、高田教育指導部次長、日浦教育指導部参事、小林教育総務課長、荻野学務課長、野村社会教育・スポーツ振興課長、青山学校教育課長、森山青少年育成課長、長谷川教育研究所長、芝本教育総務課副課長
- 5 傍 聴 者 7 人
- 6 議 事 の 要 旨
 - 開 会 午後 2 時 0 0 分
 - 会議録署名委員指名のこと
神吉委員長、桃田委員に決定
 - 会議公開の可否決定のこと
専決事項 2 「市内小学校教諭の懲戒内申について」、協議事項 2 「平成 2 5 年度全国学力・学習状況調査の公文書不開示決定に対する不服申立てにかかる情報公開・個人情報保護審査会答申について」及び協議事項 3 「教育委員の辞職申出に同意することについて」は非公開とし、他は公開することに決定

(専決報告)

1 加古川市社会教育推進員の解職及び委嘱について

(教育指導部次長より 説明)

承認

2 市内小学校教諭の懲戒内申について

承認

(議事を非公開とする)

3 加古川市少年補導委員の委嘱について

(教育指導部参事より 説明)

承認

委員 : 委員の欠員が生じている地区はまだ残っているのか。

事務局 : 今回の委嘱により、委員の欠員が生じている地区はなくなっている。

委員 : 委員の男女比はどれくらいか。

事務局 : 以前よりも男性が増え、男性 115 名、女性 55 名となっている。

委員 : 委員については、各地区ごとの推薦となっているため、性別が極端に偏る可能性もある。連合町内会での男女比調整といったようなことも検討が必要ではないか。

事務局 : 最終的には地区の連合会長から推薦をいただいているため、極端に偏ることは考えにくい。また、実際の行動はグループで行っており、男女比や活動時間帯を考慮しながら活動している状況である。

(協議事項)

1 平成27年度使用義務教育諸学校教科用図書採択について
(教育指導部長より説明)

委員 : 教科書の採択にあたって重要な観点は2点あり、1点目は「子どもたちが学びやすいものであること」、2点目は「先生にとって教えやすいものであること」と考えているが、その点は考慮されているか。

事務局 : 今回の教科用図書推薦のため、協議会が設置した各教科の調査員会の班長から、「子どもにとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という視点を最も重視し、調査研究を行ったと報告を受けている。

委員 : 教科書については、公式閲覧の期間があったと思う。その期間に閲覧された方のご意見がいくつかあれば紹介してほしい。

事務局 : 今年度については、6月13日から6月26日の間に稲美町立コミュニティセンターにて教科書の展示会を開催しており、この期間の来館者総数は115名である。

アンケート結果を例示すると、

「学校でどの程度『和』の授業をされているのかがよくわかった。今後子どもたちへの指導に生かせそうです。」

といったものや、

「社会科の教科書では兵庫県が扱われているものもあり、子どもたちも身近に感じるだろうと思った。」

といったものであった。

【国語】

(事務局より答申書に基づき説明。)

委員 : 中学校が「光村図書」の教科書を使用しているのに、小学校で「東京書籍」の教科書を使用することになった場合、小学校と中学校で異なる出版社の教科書を使用することになるが、その点については問題はないのか。

事務局 : 学習指導要領に準拠した教科書となっており、扱っている内容については大きな違いが無い中で、「東京書籍」の教科書の方が子どもたちにとって学びやすく、教師にとって教えやすい適切な教科書であると判断したため、出版社が異なっても問題はないと考える。

委員 : 「単元ごとの学習過程の明確化」とは具体的にどういうことか。

事務局 : 1年間の学習過程をロードマップ化し、子どもたちが1年間にどんな学習をするのかを一目で見渡すことができるようになっている。

また、個別の単元ごとにねらいを設け、各単元で身に付けさせたい力が明確に分かるようになっている。

委員 : 図書館の利用と合わせて、読書を進めようという動きがあったが、最近の動向について教えてほしい。

事務局 : 教科書の中で書籍を紹介するページが増えており、当該書籍を図書館に蔵書する等、連携して読書活動を推進している。

委員 : 「光村図書」と「東京書籍」の教科書では、紹介している本が異なっているため、引き続き「東京書籍」の教科書を使用する方が、図書館の既存の蔵書の有効活用につながる面もあると考える。

(国語は、全会一致で「東京書籍」の教科書を採択することに決定。)

委員 : 「東京書籍」の教科書を採択した趣旨をふまえ、図書館の蔵書充実及び蔵書を活用した教育について、事務局としてしっかりと取り組んでいてもらいたい。

【書写】

(事務局より答申書に基づき説明。)

委員 : ワードプロソフトの普及により、日常生活で「手書き」の機会が減っているように思うが、「学んだことを日常生活を生かすことができるような配慮」という点について、どのように考えているか。

事務局 : ワードプロソフトの普及も進んでいるが、「手書きで文字を伝えよう」というテーマを設けるなど、「手書き」の良さについて、子どもたちが実感できる内容になっており、日常生活への活用につながると考える。

委員 : 国語と書写について、同じ出版社を選択する利点について、どう考えているか。

事務局 : 学習する漢字の順番等、内容的に連携を図ることができると思う。

(書写は、全会一致で「東京書籍」の教科書を採択することに決定。)

【社会】

(事務局より答申書に基づき説明。)

委員 : 昨今、尖閣諸島等の様々な問題があり、その中で領土、国土に対する正しい理解を促すことが社会科の教科書の重要な役割だと考えているが、その点についてはどうか。

事務局 : 今回の教科書では、両方の出版社において、北方領土、竹島及び尖閣諸島が日本の領土であると記されており、写真も掲載されている。

また、地図帳と地球儀を活用することにより、国土の位置をとらえることができるよう工夫されている。

委員 : 日本は国際法に基づき、自国の領土であるとしているが、それに対する外国の反応の表し方についてはどうか。

事務局 : 「東京書籍」の教科書では、「尖閣諸島については中国がその領有を主張している」、「竹島は日本固有の領土であるが、韓国が不法に占領している。」といった表現がなされている。

委員 : 兵庫県が特に取り上げられるなど、加古川市の子どもが興味を持って取り組めるような内容になっているか。

事務局 : 「東京書籍」の教科書においては、兵庫県内の様々な市について書かれている。また、「日本文教出版」の教科書においては、姫路城をはじめ、姫路市について深く取り上げられている。

ただ、一つの市にとらわれず、兵庫県内の様々な市について学ぶという観点からは「東京書籍」の教科書の方がより適切であると考えられる。

委員 : 加古川市は核兵器廃絶宣言都市となっているが、原爆や平和教育について、子どもたちが理解しやすいようになっているか。

事務局 : 平和学習については、いずれの教科書にも記載されている。ただ、「東京書籍」の教科書には、子どもたちが戦争等の事実を自分の課題として学びを深めていけるような工夫が見られる。

(社会は、全会一致で「東京書籍」の教科書を採択することに決定。)

【地図】

(事務局より答申書に基づき説明。)

委員 : 地図を活用して学びを深めていくことができる工夫はされているか。

事務局 : いずれの出版社においても、土地利用の表現や記号、主題図等から自分たちの住んでいる国土を通して暮らしぶりや風土を知り、地域への愛着を育むような工夫がなされている。

ただ、「見やすさ」という点では、「帝国書院」の地図の方がより適切であると考えます。

委員 : 社会の教科書と地図が異なる出版社であっても問題はないのか。

事務局 : 「子どもにとって学びやすい」、「先生にとって教えやすい」という点において、出版社が異なることについての問題はないと考えています。

委員 : 社会と異なる出版社を選ぶということで、特に「帝国書院」の地図の方が良いと思われるポイントを挙げてほしい。

事務局 : 地図記号、図の表示等の説明がわかりやすくなっており、子どもたちが使いやすいことに加え、色合いという点からも、「帝国書院」の地図の方が見やすいと考える。

委員 : 「帝国書院」の地図は、文字の見やすさ、目標物の見つけやすさ等から考慮しても、より適切であると思われる。

(地図は、全会一致で「帝国書院」の地図を採択することに決定。)

【算数】

(事務局より答申書に基づき説明。)

委員： 「算数的活動」とは具体的にはどういうことか。

事務局： 「算数的活動」とは、具体物を用いたり、自分が考えたことを説明したり表現したりする活動のことである。今回の教科書では、分度器やコンパス等の使い方についてもスモールステップを用いており、非常に丁寧に説明されているところである。

委員： 算数は基礎や基本が大事であると考えているが、その点についてはどのような工夫がなされているのか。

事務局： 算数の基礎・基本は「数の概念」をいかに獲得していくかであると考えている。その点においては、他社の教科書が「タイル」で学習するやり方である中で、「啓林館」の教科書のみ「数え棒」を用いており、子どもたちにわかりやすいものであると考える。

委員： 「東京書籍」の教科書では、「算数から数学へのジャンプ」という表記があるが、「啓林館」の教科書においても同様の観点があるのか。

事務局： 「数学的な活動」という面において、思考・判断・表現力等、中学校へつながる力をつけることが重要であるが、その中で「啓林館」の教科書は、自分の言葉でこれまでの学習の感想を表現したり、レポート形式で思考を論じていく手立ても示している。

委員： 算数から数学へよりスムーズに移行できるよう工夫されている点はあるか。

事務局： 「啓林館」の教科書では、自分が今まで学習してきたものをさらに深めて発展的な研究をする「算数卒業研究」という記載もあることなどから、よりスムーズに移行できると考えている。

委員： 算数から数学に科目名が変わることの意味、算数的思考と数学的思考の違いについて、中学校教育の中で子どもたちによくわかるように説明してほしい。

(算数は、全会一致で「啓林館」の教科書を採択することに決定。)

【理科】

(事務局より答申書に基づき説明。)

委員 : 昨今「子どもたちの理科離れ」と言われているが、子どもたちの興味・関心を引くような工夫があれば教えてほしい。

事務局 : 図や写真を多数使用することによって、子どもたちの関心を引く工夫がなされている。

中でも「啓林館」の教科書では、I P S細胞を取り上げるなど、現代の子どもたちにも興味を持ってもらえるものになっていると考える。

委員 : 答申書の説明において「防災・減災」といった言葉が出てきたが、どのあたりにそれが表れているか。

事務局 : ハザードマップに関する記述や、日頃の備えに関する記述等があり、子どもたちが自身の課題として防災・減災について考えることができるようなものになっている。

委員 : 社会でも「安全を守る」といった表現があったが、各科目にそういう視点があるのか。

事務局 : 阪神淡路大震災や、東日本大震災等の経験をふまえ、全教科を通じて、防災・減災の視点が含まれていると考える。

委員 : 肝臓や腎臓が平仮名表記になっているが、漢字表記をしてルビをふる方がわかりやすいのではないか。

事務局 : 教科書で使用される漢字については、その時点で習っているものを用いる場合もある。

委員 : 「啓林館」の教科書には、「わくわく理科プラス」というものが付属しているが、この説明をお願いしたい。

事務局 : 「わくわく理科プラス」とは、子どもたちが思考過程を明らかにするための補助ノートとなっている。

(理科は、全会一致で「啓林館」の教科書を採択することに決定。)

【生活】

(事務局より答申書に基づき説明。)

委員 : 生活の教科書については、「気付き」が重要な要素であると考えるが、各教科書の特徴を教えてください。

事務局 : 「東京書籍」と「啓林館」の教科書のいずれにおいても、絵や吹き出しを用いているが、その中でも「啓林館」の教科書は、安易に答えとなる言葉を載せず、子どもたち自らが考える場面を設定するなどの工夫がある。

委員 : 別冊「せいかつたんけんブック」は、意味がある本だと思うが、先生方に積極的に活用してもらおうよう、事務局からも働きかけてほしい。

委員 : 「幼稚園と小学校生活をつなぐスタートカリキュラム」について具体的に教えてください。

事務局 : 幼小接続を意識したもので、ドキドキ感を取り除き、ワクワク感を伸ばすための取組となっており、登下校や学校生活の中で注意すべき内容を掲載している。

「東京書籍」の教科書では写真が中心となっているが、「啓林館」の教科書ではイラストを中心に、文字を減らす等、子どもたちが親しみやすく理解しやすい工夫が見られる。

委員 : 別冊教材は、内容も充実しているので、ぜひ有効活用してもらいたい。

(生活は、全会一致で「啓林館」の教科書を採択することに決定。)

【音楽】

(事務局より答申書に基づき説明。)

委員 : 2社の教科書について、それぞれの特徴を教えてください。

事務局 : 「教育出版」の教科書は、基礎・基本を重視し、子どもたちの発達段階に応じた内容となっており、無理なく学習を進めることができる。

「教育芸術社」の教科書についても、低学年は基礎・基本を重視した内容となっているが、中学年以降においては、やや専門的な内容が増えており、音楽用語を習得するために音楽活動を通じて体験的に理解させるという点においても「教育出版」の教科書の方が適切であると考えている。

委員 : 「教育出版」の教科書の器楽演奏について、きめ細やかな指導ができる構成になっているという話があったが、具体的にはどういうことか。

事務局 : 3年生においては専科の教師ではなく、学級担任が指導する場合もあるが、リコーダーの吹き方では、ポイントが具体的に記載されているため、指導しやすいものとなっている。

また1年生の鍵盤ハーモニカの指導についても、子どもたちにわかりやすい内容になっている。

委員 : わらべ歌や唱歌などの昔から親しまれてきた音楽については、どのように取り扱われているのか。

事務局 : 世代を超えた名歌についても伝承していく必要があると考えている。「こいのぼり」、「赤とんぼ」、「待ちぼうけ」、「たんぽぽ」等、たくさんの曲が掲載されている。また伝統楽器や伝統民謡といったものについても紹介している。

委員 : 教科書の最初の方に掲載している楽曲を、幼稚園や保育園でも紹介しておいてほしい。

(音楽は、全会一致で「教育出版」の教科書を採択することに決定。)

【図画工作】

(事務局より答申書に基づき説明。)

委員 : 「開隆堂」の教科書から「日本文教出版」の教科書に変更する理由を教えてください。

事務局 : 2社とも優れた教科書であるが、専科の教員ではない学級担任が指導する場合の教えやすさ、児童作品の豊富な掲載による作品イメージの共有といった点から、「日本文教出版」の教科書の方がより適切であると考えたためである。

また、「日本文教出版」の教科書においては、播磨地域の児童の図画工作の作品も取り上げられているなど、児童が作品に親しみやすい面もある。

(図画工作は、全会一致で「日本文教出版」の教科書を採択することに決定。)

【家庭】

(事務局より答申書に基づき説明。)

委員 : 2社の違いを具体的に教えてほしい。

事務局 : 2社とも学んだことが実践に結びつくような工夫がされているが、特に「開隆堂」の教科書においては、安全面についてのポイントがよくまとめられていることに加え、題材についてもスモールステップにより構成され、わかりやすい内容である。

委員 : 中学校卒業までには、離乳食を作ることができる技術を身に付けてほしいと考えているが、学んだことが家庭での実践につながるような工夫はあるのか。

事務局 : 「家庭で実践しようチャレンジコーナー」が設定されており、家庭での実践意欲が高まるような工夫がなされている。

委員 : 小学校から中学校への接続については考慮されているのか。

事務局 : 教科書の最後には「成長したわたしたち」というコーナーを設けており、小学校でできるようになったことの振り返りや、中学校の技術・家庭科への滑らかな接続を図っている。

(家庭は、全会一致で「開隆堂」の教科書を採択することに決定。)

【体育（保健）】

（事務局より答申書に基づき説明。）

委員：喫煙、薬物、脱法ハーブ等に関する注意喚起等は記載されているのか。

事務局：その点については、2社とも写真やイラスト等を活用してよく理解できるように構成されている。

特に、「学研教育みらい」の教科書では、テーマごとに見開き2ページで整理されており、わかりやすいものとなっている。

委員：加古川市は、ウェルネス都市宣言を行っており、自分の健康について絶えず意識しながら生活することが求められている状況であるが、健康に生活しようとする意識付けを図る工夫はなされているのか。

事務局：健康な生活を送るためには、体だけでなく心の健康も大事であると考えている。

「学研教育みらい」の教科書では、心の健康について悩み相談の例が示されている。

また、自分の学習のまとめのページもあり、内容的に充実していると考えている。

委員：加古川市では、ウェルネス手帳を作成、配布している。独自性のある取組なので、教科書と関連付けて活用してほしい。

（体育（保健）は、全会一致で「学研教育みらい」の教科書を採択することに決定。）

【その他の校種】

- ・中学校用教科書

平成27年度使用教科書は、平成26年度と同一の教科書を採択すること。

- ・特別支援学校及び特別支援学級の教科用図書

文部科学省検定済み教科書、文部科学省著作教科書を使用する方向で検討し、児童生徒の実態に応じて一般図書を採択すること。

- 2 平成25年度全国学力・学習状況調査の公文書不開示決定に対する不服申立てにかかる情報公開・個人情報保護審査会答申について

原案可決

(議事を非公開とする)

- 3 教育委員の辞職申出に同意することについて

原案可決

(議事を非公開とする)

- 次期定例教育委員会予定日のこと

9月11日(木)午後2時から 開催することに決定

- 教育長諸報告

- (1)平成26年第4回加古川市議会(定例会)日程について

9月2日から25日に開催される。

- (2)一学期から夏休み前半までの学校の事件・事故状況について

事件・事故の報告を何件か受けているが、命に関わるような大きな事案については発生していない。

委員：長崎県では高校1年生の女子生徒が同級生に殺害される事件が発生している。

委員：当該事件の加害者は、行為障害的要素を持っていると思われるので、もう少し早い段階から関わりを持ってもらえば良かったのではと考えている。

- 教育総務部長諸報告

- (1)「不審者情報マップ」のサービス開始について

平成26年9月16日(予定)より、「不審者情報マップ」を加古川市ホームページ上において公開する。

委員：犯罪の防止・抑制につながるいいアイデアだと思う。

以上、1件について報告

○ 教育指導部長諸報告

(1) 中学生の全国大会出場について

中学校部活動の全国大会が、四国ブロックで開催される。東播大会、県大会、近畿大会を経て、全国大会出場が決定する。

8月12日(火)、全国大会出場選手激励会を開催する。

(2) 加古川市教職員研修会の開催について

8月21日(木)13:30から、加古川市立総合体育館で開催する。

○ 講演 「理不尽に勝つ ー自分を超越する方法ー」

○ 講師 平尾 誠二 氏 (神戸製鋼ラグビー部ゼネラルマネージャー)

(3) 「子どもの不登校を考えるつどい」の開催報告について

8月18日(月)、「聴いてください心の声を、感じてください心の痛みを」をテーマに青少年女性センター大会議室で開催する。

委員 : 西宮市の主幹教諭がご講演いただくことになっているが、加古川市の教諭が講演活動をしているケースはあるか。

事務局 : 本市の職員が講演活動をしているケースはあまりないと思われる。今回の講師は不登校のことを専門にされている主幹教諭であるため、お招きしたものである。

(4) 家庭教育セミナーⅡ『サイバー空間の危険から子どもを守るために』の開催結果について

7月19日(土)、アラベスクホールで開催した。

(5) 平成26年度「はぐくみの旅」について

8月22日(金)、障がい児とその保護者が社会体験を通して、相互交流を図ることを目的に、「USJ」に行く。

(6) 第24回 加古川市中学生海外派遣について

8月16日(土)～8月25日(月)、姉妹都市であるニュージーランドのオークランド市に、市内の中学生を10名派遣する。

委員 : 海外の文化・歴史を学ぶことは、大変意義があることだとは思いますが、自分の住んでいる地域の文化・歴史について、海外の中学生との交流の際に主張できるレベルまで学ぶことも大切なことであると考えます。そのようなカリキュラムを組み込むことも検討してほしい。

(7) お手紙事業「私からのメッセージ」の実施について

“家族のええところ”をテーマにメッセージを募集している。

委員：募集対象が小学校4年生からとなっているが、小学校低学年も対象にしても良いのではないか。

事務局：小学校低学年を対象にしていた時期もあるが、応募件数が増えてきたこともあり、文章表現力も考慮して小学校4年生からとしている。

以上、7件について報告

○ その他

(1) ラジオ体操について

(吉田委員より 説明)

町内ごとにラジオ体操の規模・日数が大きく異なっていると感じている。一度現状について調査を進めてほしい。

事務局：各町内会にラジカセ・CDを配布している状況である。積極的な町内では、組織化して取り組んでいるところも見受けられるが、そうでない町内もある。一度アンケート等により現状調査を行う予定である。

○ 閉会 午後5時33分